

小平市議会定例会 一般質問通告書

質問件名

市内小・中学校・保育園の蛇口を自動水洗の導入、設置が出来ないか

質問要旨(質問する趣旨・内容を具体的に、1問1ページに納めて記入すること)

今年の冬はインフルエンザが大流行している。新聞やテレビでの報道によれば、国立感染症研究所の調査で、1月30日から2月5日までの1週間に全国の医療機関を受診した人は推計で211万人と大変な数になっている。この人数は、3年前に大騒ぎした新型インフルエンザが流行した時のピークの受診人数の189万人を上回っているとのことである。東京都でも、インフルエンザ流行警報を2月2日に出している。小平市でも次の様にホームページで掲載されています。「都内419インフルエンザ定点医療機関からの1月23日から1月29日の患者報告数が、1医療機関あたり32.2人になり、流行警報が発令されている。1月30日から2月5日の患者報告数は45.20人で、現在の調査が始まった1999年以降もっとも多くなっている。」と。

今年のインフルエンザの主流はA香港型と言われており、これまでも何回も流行したタイプである。このため、聞きなれた名前のインフルエンザであるため、世間では特に関心を持たれていないようにも思える。インフルエンザはその名のとおり、インフルエンザウイルスによって引き起こされる感染症である。その症状は、急な発熱で高熱になる、鼻水、のどの痛み、咳、関節痛などが多い特徴があり普通の風邪に比べると症状が重いといわれている。最悪の場合は、死に至ることもある。現実にも今年もあちらこちらの病院で、院内の集団感染が発生し、多くの方が亡くなっている。季節性のインフルエンザといっても、死者も出る大変な病気である。また、A香港型のウイルスが大きな流行を起こしたときには、脳症を起こす子どもが多く報告されていると報道されているため、小さなお子さんをもつ親御さんも心配されていると思われる。そこで市のインフルエンザに対する認識を含めて質問します。

- 1 今年の東京都のインフルエンザの流行の特徴はどこにあると考えるか。
- 2 インフルエンザにかかりやすい年代はどの年代か。
- 3 市内の子供たちが通う保育園・小学校・中学校の休校数や学級閉鎖の状況はどうか
- 4 小平市では全国や都全体と比べてインフルエンザにかかる人が多いのか少ないのか
- 5 市内小・中学校、保育園の蛇口をインフルエンザの流行防止対策、衛生上の観点から自動水洗に変える考えはないか
- 6 もし実現するとすれば、設置場所数は何カ所あるか

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

平成24年2月20日 小平市議会議長殿

小平市議会議員 氏名 永田 政弘